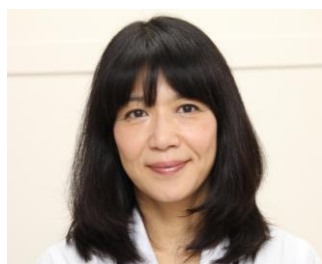




奈良県立医科大学眼科ニュースレター Vol. 10

ご挨拶

教授 緒方奈保子



今年も12月、師走となりました。今年1年、皆様いかがお過ごしでしたでしょうか？11月にはフランスパリでテロ事件がありました。ちょうどAAO(American Academy of Ophthalmology)に参加中でアメリカにいましたが、テレビニュースはずっとテロ事件の報道をしていました。国内ではマイナンバー制度が始まりましたが、医師の世界では専門医制度も新しくなります。本当の意味での専門医資格が問われる時代になってくるのでしょうか。

眼科領域では抗VEGF薬が認可されて以来、より適応が広がり多くの患者さんに使われるようになってきました。治療効果は確実なものではありますが、頻回投与が必要となると患者も医師も負担が多くなり大きな問題となっています。昨年ニューヨークのYanuzzi先生とSpade先生のクリニックを見学させていただいた時、診察と同時にそのまま診察椅子に座った患者に点眼麻酔を行い、注射部位の結膜をイソジンをつけた綿棒でちょこちょこ消毒し即、硝子体注射をする、という簡便さにちょっとびっくりしました。まあ、これなら多数の硝子体注射をこなせるはずです。

高齢化が進むなか、眼科医の重要性は増しています。2012年より行っている高齢者の眼科検診(藤原京EYEスタディ)の結果、視力が悪いと認知症のリスクが高い、また白内障手術で視力が良くなると認知機能低下を防げるなど、眼科の重要性を示すデータが出てきました。

医療の世界は日々進歩変遷していきませんが、いま奈良県立医科大学も変わろうとしています。新校舎の設立に向けての寄付申し込み案内が届いた奈良医大同窓会の方も多くいらっしゃるのではないのでしょうか？細井理事長・学長がメッセージを書かれています。ふるさと納税制度を利用した寄付です。奈良県に寄付し、その寄付金の使用を奈良県立医大の発展のために使ってもらうように使用を指定するものです。この寄付金は個人の地方税からその分軽減されますので、実質は2000円の負担で済みます。どのみち払う地方税の一部を奈良医大の発展のために使用できるのです。地方自治体によっては、ふるさと納税のお礼の品があり、人気の自治体があるようです。しかし残念ながら奈良県のお礼の品は、非常にみすばらしいものです。お礼の品は奈良医大の発展とさらなる飛躍ということになります。同窓会の先生方には眼科学教室へのご寄付とともによりしくお願い申し上げます。

講演会

第1回 RETINA FORUM in NARA

平成27年10月9日に巖櫃会館にて第1回 RETINA FORUM in NARA が開催されました。今回は特別講演として滋賀医科大学眼科学講座教授の大路正人先生にお越し頂き、「糖尿病黄斑浮腫の診療」というタイトルでご講演頂きました。糖尿病黄斑浮腫に対する治療であるレーザー光凝固、トリアムシノロンや抗 VEGF 薬の硝子体注射、硝子体手術の効果などについて、ご自身のデータを中心に、新たな知見についても多数のデータお示し頂きながらご説明頂き、糖尿病黄斑浮腫に対する知識がさらに深まりました。



ご講演中の大路教授

第10回奈良県眼科万葉フォーラム

平成27年10月17日に橿原ロイヤルホテルで第10回奈良県眼科万葉フォーラムが開催されました。今回は特別講演として順天堂大学眼科学教室教授の村上晶先生に「網膜色素変性から学ぶこと」というタイトルでご講演頂きました。難治性疾患である網膜色素変性の患者に、病気についてどのように説明すればよいかなど具体的にお話頂き、さらに網膜色素変性発症に関わる遺伝子など新しい知見についても詳細にご説明頂きました。網膜色素変性に対する診療の最先端を知ることができ、大変勉強になりました。



ご講演中の村上教授

学位取得

学位取得にあたり

岡本 全弘（平成14年奈良医大卒）

学位論文の完成にあたり、本当に多くの皆様方にお世話になりました。また、温かいご支援やご助力をいただきました。

奈良医大教授の緒方奈保子先生には、御就任当初から研究主旨をご理解いただき論文の内容に関して親身になってご指導をいただきました。また、論文の書き方を教えていただき、論文の質を高める貴重なご助言をいただきました。終始ご指導ご鞭撻を賜りましたことを深く感謝いたします。また、奈良医大前教授の原嘉昭先生、前准教授の松浦豊明先生には、眼血流測定装置(LSFG-NAVI)の導入により、ご迷惑をおかけしながらも研究の端緒より眼血流について広い視野で学ぶ機会を与えていただき、多くの啓発を受けることができました。心より深謝いたします。また、奈良医大助教の小島正嗣先生には、アメリカ留学中にも関わらず、学位取得の経験に基づく貴重なご意見をお聞かせいただき、激励と共に多大なご支援をいただきました。心より感謝いたします。

そして、奈良医大循環器内科教授斉藤能彦先生、奈良医大麻酔科教授川口昌彦先生には、論文審査を快くお引き受けいただき、審査過程において的確かつ貴重なご指示やご助言を賜り、ご審査いただきましたことを厚く御礼申し上げます。

本論文の中の実測にあたり、奈良医大眼科学教室の関係各位、および、視能訓練士の方々の多大な理解とご協力をいただきました。ここに記して深く感謝の意を表します。

最後に、家族に感謝の意を表します。休日はほとんど執筆作業で家のことは何も手伝いませんでしたが、文句も言わずに許してくれました。長い間協力し支えてくれた家族に改めて感謝をいたします。



数多くの皆様方のご支援のもとに論文を作成することができました。本当に有難うございました。今、改めて多くの皆様方に暖かく支えていただける恵まれた環境にあった有難さを実感しております。

今後は、論文の成果を医学の貢献に少しでも役立ててご恩に報いたいと考えています。どうも有難うございました。

学位とは、人生における一つのきっかけである

辻中 大生（平成20年奈良医大卒）

このたび主論文である Human retinal pigment epithelial cell proliferation by the combined stimulation of hydroquinone and advanced glycation end-products via up-regulation of VEGF gene が Biochemistry and Biophysics reports 誌に掲載され、学位を取得させていただくことができました。まず初めに論文掲載や学位取得に際し、多大なるご尽力を賜りました本学生化学教室の高沢教授、生化学教室のスタッフの皆様、並びに眼科学教室の緒方教授はじめスタッフの皆様に厚く御礼を申し上げます。このたび、学位を取得するにあたり、僭越ではございますが、私感を述べさせていただきたいと存じます。私が今回一番実感したことは、チームの重要性です。医療に関してもチーム医療が叫ばれて久しいと思いますが、研究を進めていくうえで、やはりチームというのは非常に重要です。私が研究をイロハから教えていただいた生化学教室には、高沢先生という精神的支柱（精神的以外にも支柱！）がいらっしゃるわけですが、そこに広中先生、山内先生といった先生方がうまく融合され、教室としての歯車がかみ合っていたように思いました。一人で考えて、いいシーズが出たとしても、やはりそれをディスカッションの中で育てていなければ良い研究はできないと考えます。それを実践していらっしやった高沢教室は本当にすごいと感じました。私も、若輩者ながら医学博士になれたわけで、これからは自分のことももちろんですが眼科学教室にそういった知的好奇心を育てることのできるチームが作れたらいいなと感じております。幸い、この4月から大学院生の益田先生と眼科学教室分子生物学チーム（通称、眼科科学部）をスタートさせることができ、悪戦苦闘しながらも少しずつデータを蓄積することができております。臨床業務が終了してからの実験ですので、体力的につらい事もあ



りますが、チームがあれば、それも楽しく思えるのです。みんなであーでもないテレビゲームをクリアしていた小学生の頃を思い出します。あとはチームの構成員が増えれば、、、M澤先生、O槻先生待ってるよ！とこの場を借りてひとしきり勧誘をしたところで締めとさせていただきます。「次が大事なんだぞ！」学位取得時に高沢教授から頂いた言葉を胸にこれからも邁進してまいります。

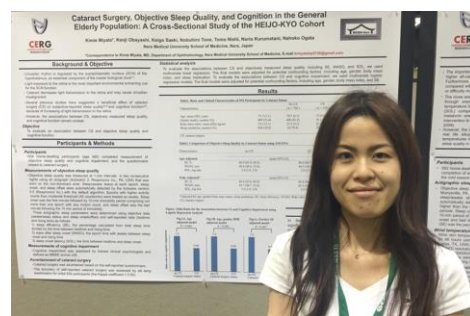
学会報告

SLEEP（米国睡眠学会）2015の報告

宮田 季美恵（平成20年奈良医大卒）

2015年6月SLEEP2015に参加させていただきましたので、報告させていただきます。

現在、眼科では2つのコホートスタディ、1つの無作為比較試験（RCT）を進めています。コホートスタディの1つ目は通称：藤原京スタディです。70歳以上の高齢者2900人を対象に「高齢者の元気の秘訣を探る」という目的のもと、地域健康医学教室、循環器内科、呼吸器内科、精神科、整形外科、歯科、耳鼻咽喉科、皮膚科、栄養士、建築メーカー等と共同研究をしています。コホートスタディの2つ目は通称：平城京スタディです。サーカディアンリズム（概日リズム）は、外部からの光情報を光感受性網膜神経節細胞が受容し、生体内リズムと外部環境を同調させることで調整しています。眼とサーカディアンリズムの関連に注目し、地域健康医学教室と共同研究をしています。無作為比較試験（RCT）は通称：白内障スタディで、平城京スタディをベースとしています。白内障手術で水晶体混濁が除去されると網膜への光透過量が増加し、サーカディアンリズム障害が改善すると考えられており、よりエビデンスレベルの高いRCTで解明しようと取り組んでいます。今回の学会では平城京スタディの研究を発表させていただきました。



SLEEP2015はシアトルで開催されました。シアトルは海の景色がとてもきれいな街です。スターバックスコーヒー1号店、シアトルマリナーズの本拠地セーフコ・フィールド、そして新鮮な海の幸、地ビール、ワインなどを満喫しました。

睡眠はサーカディアンリズムの指標の1つであり、また睡眠障害は全身疾患のリスクになるといわれています。SLEEP2015では睡眠の基礎研究、臨床研究、そして全身疾患との関連など多彩な発表・討論がされていました。今回は、白内障術後群は白内障群に比べて睡眠の質が良い、認知機能が良いという研究結果を発表させていただきました。白内障手術をすると網膜への光透過量が増加することで睡眠障害、認知機能障害が低下する可能性があるのではないかと考えています。サーカディアンリズムを研究している方との討論で多くの事を勉強させていただきました。今後の研究に生かしたいと思います。



第69回臨床眼科学会報告

大槻 光伸（平成25年奈良医大卒）

この度は医局の先生方に多大なご高配を頂き、10月22日～25日の4日間、名古屋国際会議場で開催されました第69回臨床眼科学会に参加させて頂きました。金曜日には、上田先生、西先生と緒方教授のご指導を頂き、ポスターではありますが眼科の学会では初めての発表を無事に終えることができました。演題の題目は「ブリリアントブルーGを用いた黄斑前膜手術前後における多局所網膜電図の変化」でした。硝子体手術の際に内境界膜を染色する目的で使用するブリリアントブルーGが安全な染色剤であることを、視力やOCT、ERGを用いて示したものです。留守番して頂いた先生方、ご指導頂いた先生方、拙い発表を聞いて頂いた先生方に厚く御礼申し上げます。



学会直前の10月20日までホテルを取っておらず、「なんとかなるやろ」と思っていたのですが、結局のところ全然なんともならず、毎日王寺の自宅から名古屋国際会議場まで片道3時間弱の道のりを通う日々になってしまいました。

また、朝9時に会場に到着してもインストラクションコースは既にほぼ全て満席になっており、ランチョンセミナーもなんとか確保できた状況でした。その他、一般演題も満席立ち見がほとんどで、拝聴したかった講義の半分も聴けず、次回の学会への反省点となりました。

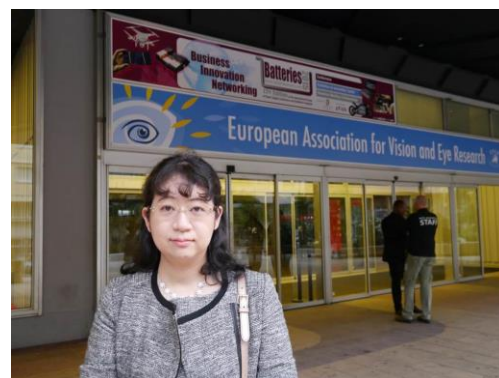
一方で、同行してくれた研修医の先生と美味しいひつまぶしを食べ、来年の眼科入局に向けて、しっかりと勧誘できましたので自分の中では充実した学会期間となりました。

また学会に行ける日を楽しみに、日々精進して参ります。

EVER 2015 報告

西 智（平成14年奈良医大卒）

EVER (European Association for Vision and Eye Research) は、ヨーロッパのARVOのような学会で、毎年10月にフランスのニースで開催されています。緒方先生が以前参加されて大変楽しかったと伺い、一度行ってみたいくなり、今回ポスター発表で参加してきました。ニースへ行くのも初めてで、ARVOは2回参加していたのですが、



ヨーロッパでの学会は初めてでしたので雰囲気とか違うのかと楽しみにしながら向かいました。ニースへは直行便は無いのでヨーロッパ内で乗り継ぎ、14時間くらいで到着です。ニースの空港は海沿いにあり、飛行機から地中海が綺麗に見えて紺碧に輝いていました。

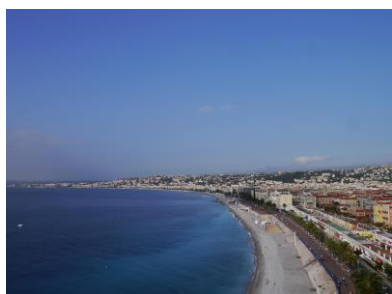


学会場は、アクロポリス国際会議場で、ニースの中心部からトラムに乗って約5分で到着です。ニースのトラムは、中心部を走る時は架線をたたくでバッテリーで走ります。景観を考慮してとのことで、観光地間輸送手段が面倒だと言われている奈良にも走らせれば便利なのになどと思ったりしました。今回

の発表は、British Journal of Ophthalmology に掲載した、遠視性不同視弱視眼の視神経外節の長さが、眼鏡治療後に延長する報告で、症例数を増やして発表してきました。これは弱視眼にとって良いことなのかどうかという質問や、今後の研究プランなどを聞いて頂き大変有意義でした。他の発表では、日照時間の長い夏の方が瞳孔反応は大きいという発表があり、季節によって日照時間が大きく異なるヨーロッパならではの発表だと印象に残りました。



ニースの街は旧市街も海岸線も綺麗に整備されていて、海岸には椰子の木が沢山植えられており、南国気分が味わえました。朝から多くの人がマラソンを楽しんでいて、10月でも泳いでいる人もいました。また近郊のエズ村やサンポールドヴァンス村にも立ち寄りしました。鷲の巣村として写真では見たことがあった



のですが、実際に行ってみると崖の上に中世の街並みが残っており、大変美しい村でした。エズ村からは地中海が一望でき、崖の頂上の植物園ではサボテンが栽培されていて、温暖の気候を物語っていました。

学会でヨーロッパを訪れたのは初めてでしたので大変勉強になりました。今後もこの経験を臨床、研究に役立てていきたいと思ひます。

出向病院での勤務について～恩賜財団済生会中和病院～

益田 尚典（平成23年奈良医大卒）

平成27年4月より大学病院を離れ、初めての出向先である済生会中和病院で勤務しています。後期研修医でありながら1人常勤という状況で日々戦々恐々と外来に立つ毎日ですが、大学ならびに市立奈良病院、奈良総合医療センターから来てくださる偉大なる先生方に助けていただきながら何とかやっています。素晴らしい先生方とともにこれからも済生会中和病院眼科を切り盛りしていこうと思ひますので、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



奈良県立医大 眼科外来診察表

		月	火	水	木	金
1診	午前	丸岡	上田	手術日	緒方	手術日
	午後	角膜外来	網膜硝子体外来	専門外来	網膜硝子体外来	専門外来
2診	午前	辻中	岡本	手術日	小島	手術日
	午後	角膜外来	緑内障外来	専門外来	眼循環外来	専門外来
3診	午前	山下	西	手術日	吉川	手術日
	午後	黄斑外来	小児・神経眼科 外来	専門外来	緑内障外来	専門外来
4診	午前	水澤	宮田	手術日	峯(第1,3,5) 大萩(第2,4)	手術日
	午後		黄斑外来	専門外来		専門外来
5診	午前		水澤	手術日	小林(第1,3,5) 増田(第2,4)	手術日
	午後			専門外来		専門外来

- ・ 専門外来は完全予約制です。
- ・ 初診の場合はまず、月・火・木の外来を受診するようお願い致します。
- ・ 地域連携の予約は月・火・木が5名、水・金は3名可能となっております。

編集後記

平素は奈良県立医科大学眼科学教室の運営にお力添え頂き、誠に有難うございます。早いものでニュースレターは今回で10回目の発行となりました。ニュースレターでは引き続き、同窓会の諸先生方からのご投稿をお待ちしております。残念ながら、これまで全くご投稿頂けておりませんので、何なりとご投稿頂ければ幸いです。もちろんテーマは自由です。ご投稿、ご質問などは下記メールアドレスまでよろしくお願い致します。

smaruoka@narmed-u.ac.jp 奈良県立医科大学 眼科 丸岡真治